



マックス株式会社 2023年3月期第3四半期 決算説明会 質疑応答録

この質疑応答録は、2023年1月31日（火）に開催したアナリスト、ファンドマネージャ向け決算説明会電話会議にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

■インダストリアル機器部門について

[質問1]

コンクリート構造物向け工具の第3四半期の売上実績を教えてください。

[回答1]

コンクリート構造物向け工具の第3四半期（3ヶ月間）の売上実績は、海外57億円、国内14億円となりました。国内・海外合計は71億円で27%の伸長です。

前年同期の実績は、海外43億円、国内13億円でしたので、海外は32%の伸長、国内は9%の伸長となりました。

機械と消耗品でみると、海外の機械は25%の伸長、消耗品は39%の伸長となりました。国内の機械は16%の伸長、消耗品は9%の伸長となりました。

数量ベースでは、北米は機械1%減、消耗品13%増、欧州は機械8%減、消耗品14%増、国内は機械15%、消耗品6%の増加となりました。

[質問2]

海外機工品事業の通期計画を下方修正した理由について教えてください。

[回答2]

第4四半期の想定為替レートを1ドル135円から130円に見直したことが主な理由です。

事業自体は堅調に推移しており、数量ベースでは大きな変更はありません。

■全社状況について

[質問3]

第3四半期までの販管費増に含まれる為替換算差は8億円ですが、第2四半期までの実績を教えてください。

[回答3]

第2四半期累計では5億4千4百万円発生しています。

[質問4]

今後の荷発費の推移や、電力単価の上昇などインフレによる影響を教えてください。

[回答4]

振り返ると荷発費は第2四半期がピークで、足元の第3四半期は状況が落ち着きました。第4四半期以降は、第3四半期の水準で推移することを想定しています。

また、電力単価の上昇による影響は、現状では大きくないと考えています。

[質問5]

在庫未実現利益の為替影響の状況について教えてください。

[回答5]

円安に推移した第2四半期累計では約4.5億円発生し、利益に対してマイナスの影響でした。第3四半期は足元で円高に推移した為替により、約3億円のプラス影響となりました。第3四半期累計では約1.5億円のマイナスの影響です。通期でみると損益への影響は小さいと想定しています。在庫未実現利益の為替影響は、決算説明会資料5ページの営業利益の増減要因において「数量増」に含まれており、売上総利益の増減に影響を与える要素となっています。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が2023年1月31日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。